

2. PBR 改善に向けて

現状分析による課題を踏まえ、別途進める「プロジェクトZ」の諸施策を着実に進めることにより、2027年までにPBR1倍以上の実現を目指します。

【目指す姿（2027年）】	連結営業利益率	5%以上	▶ PBR1倍以上
	ROE	8%以上	
	DOE	2%以上	

【改善の方向性と施策の進捗状況】

① 収益性改善

■ 売上総利益率向上

- ・ 抜本的構造改革への取り組み「生産最適化」「国内営業深化」は計画通り進捗
「開発最適化」は利益率改善では一部遅延、開発効率化は計画通り
- ・ 成長戦略の取り組みは「海外」「国内」とも計画通り進捗

■ 販管費率改善

- ・ 人員構成の最適化は希望退職未達も、想定人件費水準は確保
- ・ 経費削減は一部遅延、業務仕分け徹底

② 資産効率化

■ 固定資産回転率改善

- ・ 生産拠点再編投資を圧縮(460→380億円)、投資判断基準としてのハードルレートを見直し

■ 棚卸資産回転率改善

- ・ 季節商品の在庫最小化、在庫圧縮への取り組みにより24年は0.2回転改善

③ 成長に向けたキャッシュアロケーション

- ・ 在庫圧縮により営業キャッシュフロー黒字化

④ IR活動・ESG取り組み強化

- ・ 対話・情報開示の拡充、高度化への取り組みは計画通り進捗
- ・ ガバナンス体制強化への取り組みは計画通り進捗

3. 株主・投資家との対話状況

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するためには、株主・投資家の皆さまの理解が不可欠であると考えています。当社の経営方針を丁寧に説明し、建設的な対話を行い、長期的な信頼関係の構築に努めてまいります。

対話については、経営管理部門（IR・広報室、総合企画部、財務部、総務部）の担当役員が統轄し、決算説明会をはじめとしたさまざまな機会を通じた積極的な対応に努めています。

以上

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。